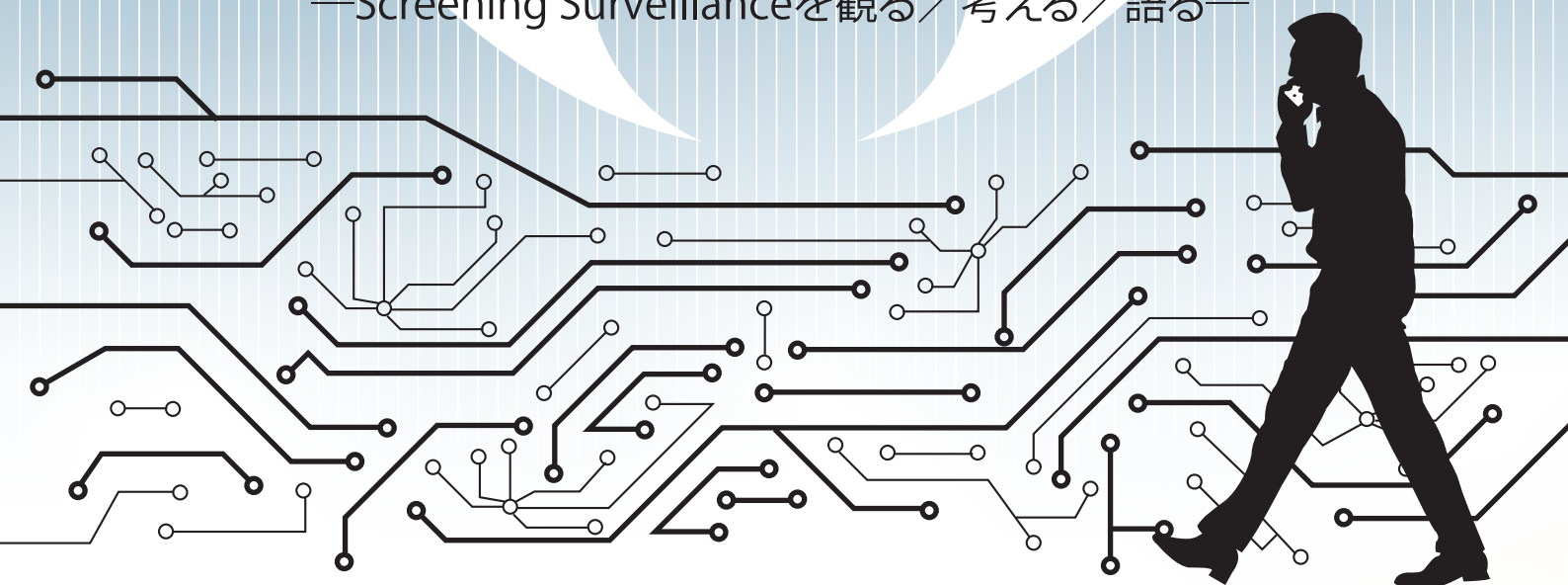


# 監視テクノロジーと日常生活

—Screening Surveillanceを観る／考える／語る—



日時 2019年12月9日(月) 17:00～18:30

会場 関西学院大学 B号館 302 (西宮上ヶ原キャンパス)

近年、ビッグデータの可能性がビジネス界で盛んに喧伝される。デジタルテクノロジーの普及のもと、わたしたちの日常生活がさまざまな〈データ〉として収集・蓄積・分析・利用されることは、もはや当たり前になっている。だが、ビッグデータ時代とは、便利で快適な夢のような生活と同時に、日常の細部が捕捉・管理・分析される監視の広まりを意味してもいる。

今回の公開研究会では、監視研究の国際的拠点であるカナダ・クィーンズ大学監視研究センターが製作した短編映画集Screening Surveillanceを鑑賞する。ビッグデータが日常化した近未来を描いた秀逸な映像を通して、ビッグデータへと向かう今の社会の動向について理解を深めるとともに、そこに潜む課題と問題について考える。

同センタースタッフでもあるクィーンズ大学社会学部准教授David Murakami氏と、日本社会におけるメディア・リテラシー教育／実践に携わってきたFCTメディア・リテラシー研究所の田島知之氏を、討論者として迎える。明るく楽しいデジタル社会が、不気味で恐ろしい監視社会にもなりうるという現実を前にして、わたしたちはビッグデータとどう向き合うべきなのか。フロアーも交えて、活発な議論を深めていきたい。

討論者 David Murakami Wood(カナダ・クィーンズ大学社会学部准教授)  
田島知之(FCTメディア・リテラシー研究所)

司会 阿部潔(人権教育研究室)

主催 関西学院大学人権教育研究室

共催 特定非営利活動法人 FCTメディア・リテラシー研究所